

2025年3月期
第1四半期 決算説明資料

株式会社ジャパン・ティッシュエンジニアリング
2024年7月30日



(東証グロース：7774)

目次

1.	2025年3月期 第1四半期の業績	----	1
2.	第1四半期のトピックス	----	10
3.	2025年3月期 通期業績予想	----	17
4.	参考資料	----	19

2025年3月期 第1四半期の業績

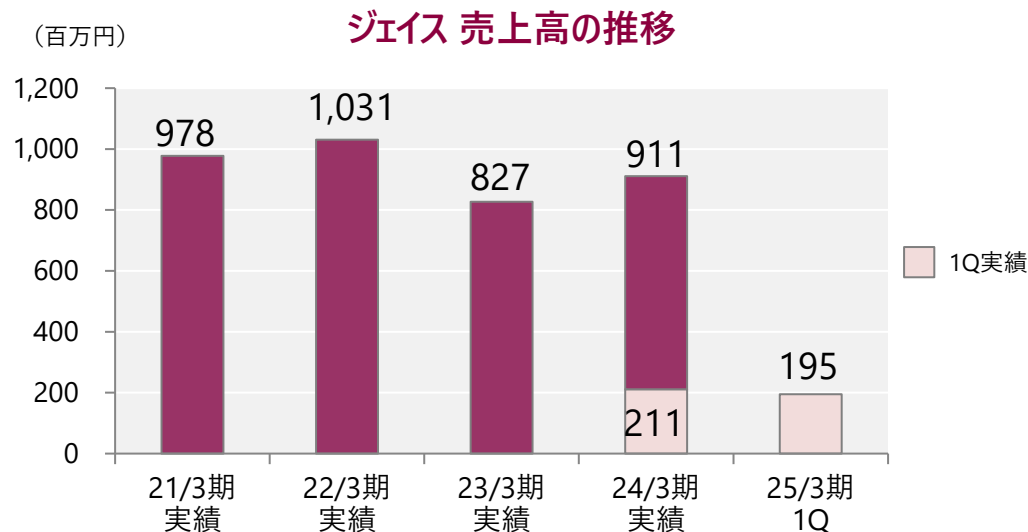
- ✓ 2025年3月期第1四半期の売上高は、再生医療受託事業の売上減少などに伴い、442百万円（前年同期比33.2%減）となった。
- ✓ 営業損失は193百万円（対前年同期△207百万円）、経常損失は192百万円（対前年同期△207百万円）、四半期純損失は211百万円（対前年同期△224百万円）となった。

単位：百万円 (百万円未満切捨て表示) (増減率は円単位で計算)	2024年3月期	2025年3月期			
	第1四半期 累計実績	第1四半期 累計実績	対前年同期		
			増減額	増減率	
皮膚領域（ジェイス）	211	195	△16	△7.7%	
軟骨領域（ジャック）	72	84	12	16.5%	
角膜領域（ネピック、オキュラル）	55	21	△34	△61.7%	
再生医療製品事業	340	301	△38	△11.3%	
再生医療受託事業	268	86	△181	△67.8%	
研究開発支援事業	53	54	0	1.0%	
売上高合計	662	442	△219	△33.2%	
売上総利益	460	247	△213	△46.3%	
販売費及び一般管理費	446	440	△5	△1.3%	
営業利益	14	△193	△207	-	
経常利益	14	△192	△207	-	
四半期純利益	13	△211	△224	-	

※ 2025年3月期より、再生医療製品事業の売上高を領域別に表示する。これに伴い、「その他」としていたジャスミン等の売上高を各領域に組み替えた。

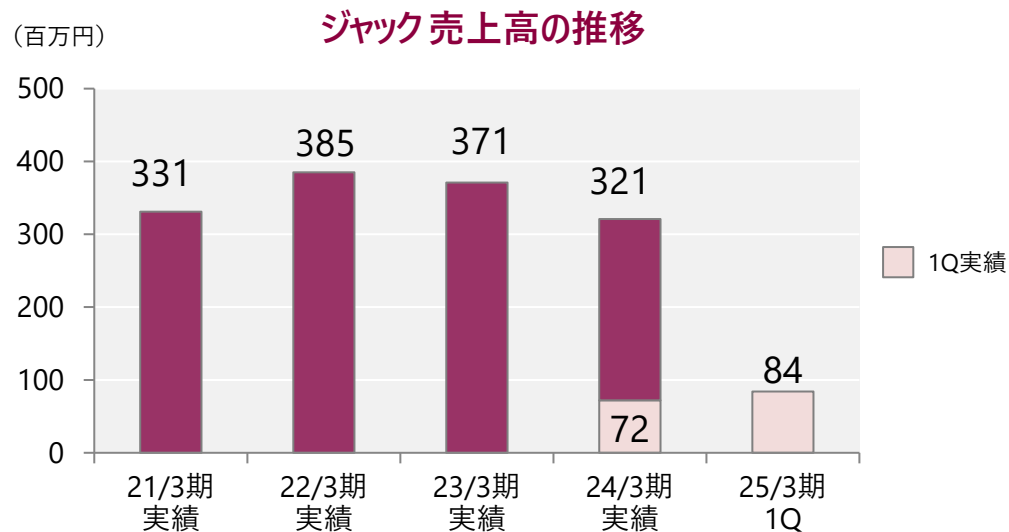
再生医療製品事業：自家培養表皮ジェイス

- ✓ 2025年3月期第1四半期の売上は、195百万円（前年同期比7.7%減）。
- ✓ 重症熱傷では一部のエリアで発生頻度が低下し、売上が下振れした。重点施策として、受注が低調となっているエリアを中心に、熱傷治療の最新情報を伝えるための医局説明会や地方研究会でのセミナーを展開している。
- ✓ 先天性巨大色素性母斑では、ジェイスを併用する新たな治療法を推進する施設で受注が急伸しており、売上が大きく増加した。
- ✓ 表皮水疱症では、新規受注の安定に加え、過去に移植を受けた患者の治療経過が良好であることを理由に追加移植の需要が高まっており、売上が増加した。



再生医療製品事業：自家培養軟骨ジャック

- ✓ 2025年3月期第1四半期の売上は、84百万円（前年同期比16.5%増）。
- ✓ 売上をけん引する大口施設からの受注が順調に回復し、さらにコロナ禍で落ち込みのあった一般施設での需要も回復しつつある。ジャックの有効性を訴求する営業活動が奏効し、膝関節専門医への認知も拡大したことが追い風になっている。また、令和6年度診療報酬改定により6月から保険償還価格が引き上げられたことも、売上増加に寄与している。
- ✓ 5月に開催された日本整形外科学会学術総会では、ジャック使用経験のある医師約120名とコンタクトを取り、ジャックの適応となる患者さんの有無を確認するとともに、臨床現場に関連する議論を通じてジャックの有効性などに関する情報提供を行った。
- ✓ また、6月17日には変形性膝関節症への適応拡大に向けて一部変更承認申請を行った。



再生医療製品事業：角膜領域（ネピック・オキュラル）

- ✓ 2025年3月期第1四半期の売上は、21百万円（前年同期比61.7%減）。
- ✓ 販売開始当初は拠点施設で順調に立ち上がったが、候補となる待機患者への移植が一巡したことで売上が鈍化している。片眼にオキュラルを移植した両眼性疾患の患者さんに対する対側眼への受注が入り始めたが、まだ一部に止まっており、治療対象患者の掘り起こしが急務となっている。新たな取り組みとして、本品の対象疾患である角膜上皮幹細胞疲弊症を引き起こすスティーヴンス・ジョンソン症候群や眼類天疱瘡に関する診療状況の調査を、6月に開催された日本皮膚科学会総会において行うなど、多面的なアプローチによって患者の掘り起こしを進めていく。
- ✓ また、販売を担う株式会社ニデックとの協働による角膜専門医への直接的な治療啓発も並行して進め、根治療法がなかった角膜上皮疾患に向けて再生医療という選択肢を周知していく。

ネピック[®]
自家培養角膜上皮

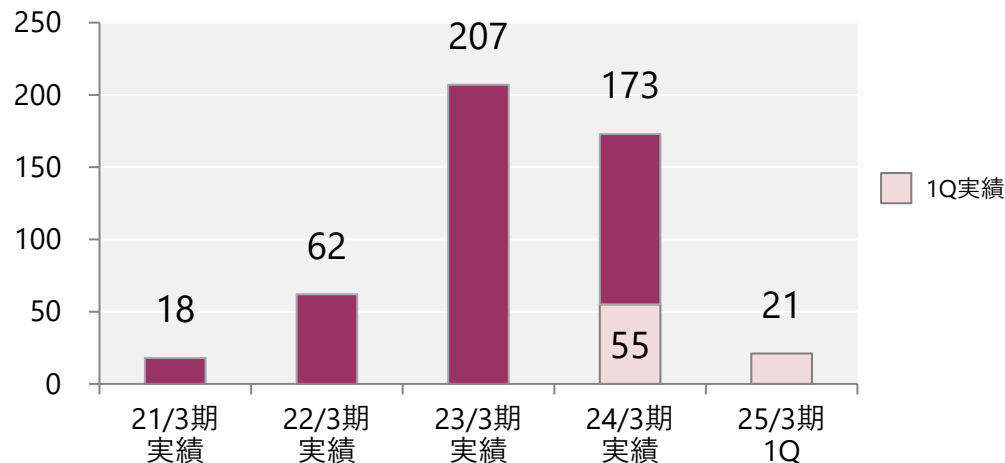


オキュラル[®]
自家培養口腔粘膜上皮



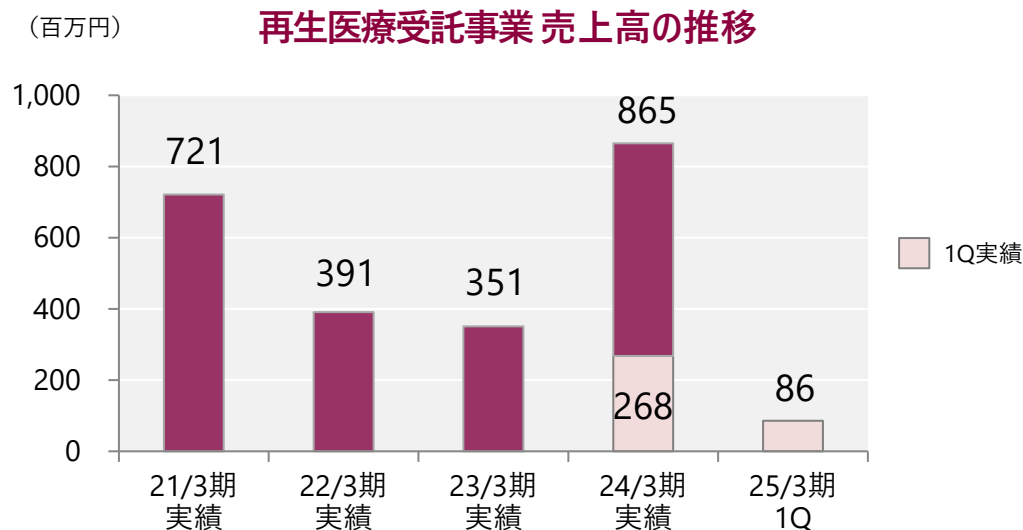
(百万円)

ネピック・オキュラル 売上高の推移



再生医療受託事業（CDMO）

- ✓ 2025年3月期第1四半期の売上は、86百万円（前年同期比67.8%減）。
- ✓ 既存顧客及び新規顧客案件では、開発製造受託（CDMO）・開発業務受託（CRO）に係るサービスが順調に進んだが、前年同期に帝人株式会社との再生医療受託事業に係るライセンス契約に基づくマイルストーン対価の一部（170百万円）を計上した影響で、売上全体は前年同期比で減少した。
- ✓ 当社は帝人グループとして、2023年8月に設立された帝人リジェネット株式会社と共同で展示会出展をするなど、再生医療CDMO事業に関する協力体制を構築している。再生医療のトップランナーとしての経験とノウハウをもって、研究から事業化まですべての段階の課題解決に貢献することにより、帝人株式会社及び帝人リジェネット株式会社とともにCDMO事業の拡大を図る。



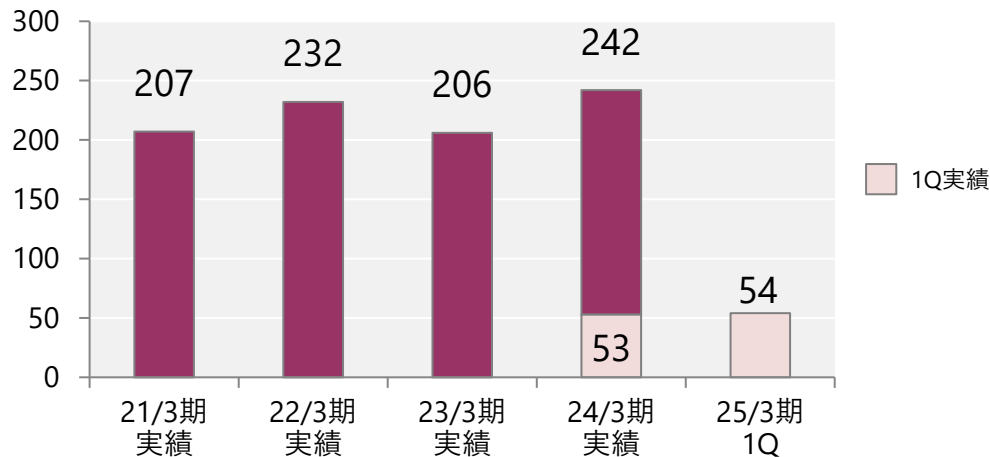
研究開発支援事業：ラボサイト

- ✓ 2025年3月期第1四半期の売上は、54百万円（前年同期比1.0%増）。
- ✓ 研究用ヒト培養組織ラボサイトシリーズは、国内及び海外（欧州・米国・インドなど）に対し、オンライン面談による製品使用方法及び疑問点へのきめ細やかな説明、新規使用方法のウェビナー開催などを積極的に実施した。6月には海外展開に向けた新たな取り組みとして、欧州インビトロ毒性学会（ESTIV）でのブース展示を行い、欧州展開の地盤構築を図った。
- ✓ エピ・モデル24を用いた皮膚刺激性試験法及び皮膚腐食性試験法ならびに、角膜モデル24を用いた眼刺激性試験法は、標準法の一つとして経済協力開発機構（OECD）のテストガイドラインに記載されており、日本国内においてはトップシェアを占めるモデルとなっている。また、エピ・モデル24を用いた新たな標準法として、皮膚感作性試験のテストガイドライン記載を足掛かりに、国内外での拡販に向けて準備を進めている。

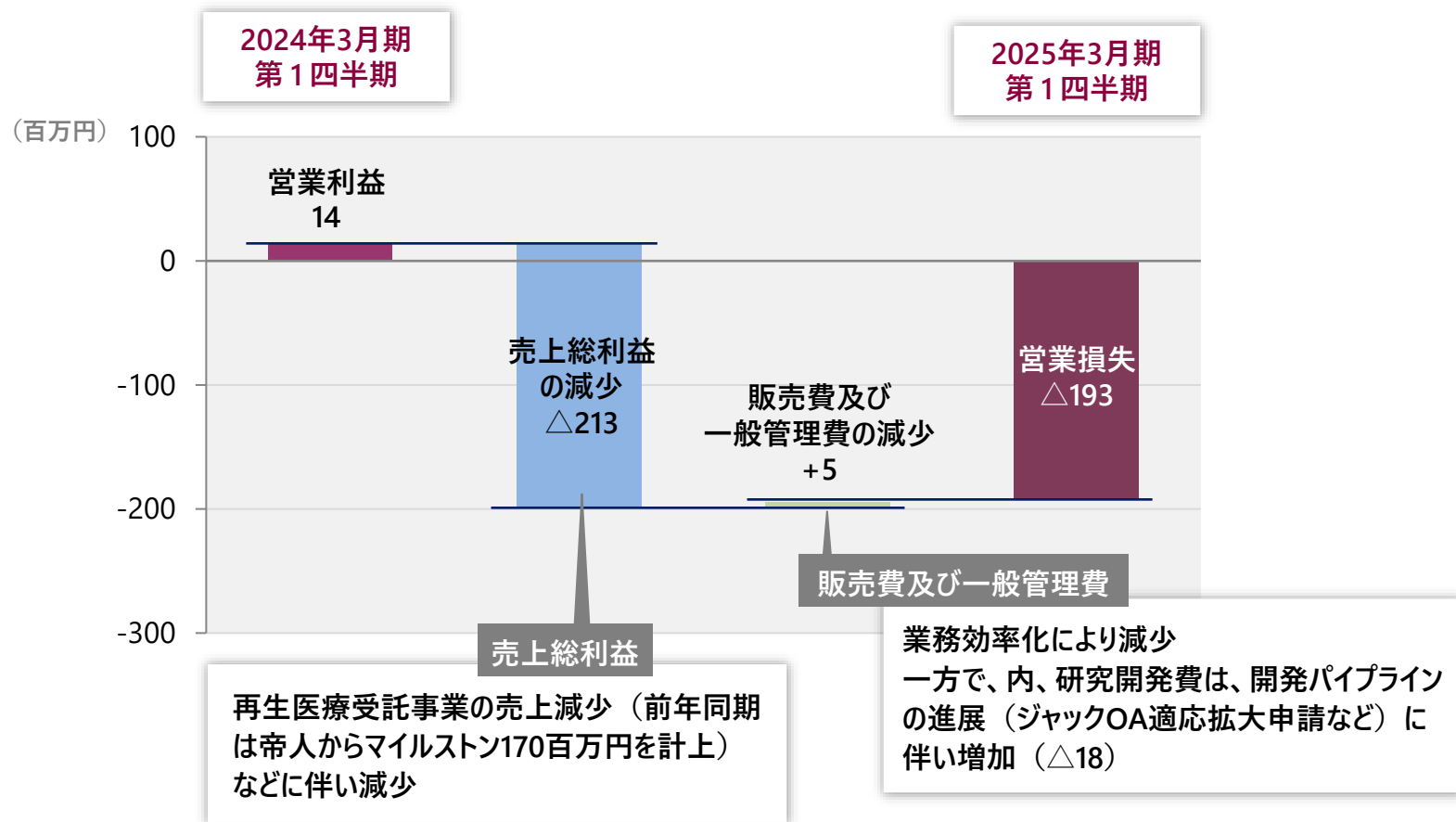


(百万円)

研究開発支援事業 売上高の推移



営業利益増減の内訳



貸借対照表の概要

(単位：百万円) (百万円未満切捨て表示)		2024年3月期 2024年3月31日	2025年3月期 2024年6月30日	増減額	
流動資産	5,339	5,001	△337	売上債権の減少等	
固定・繰延資産	1,649	1,628	△20		
資産合計	6,988	6,630	△358		
流動負債	873	726	△147	賞与引当金の減少等	
固定負債	34	34	-		
負債合計	908	761	△147		
資本金	4,958	4,958	-		
資本準備金	2,788	2,788	-		
利益剰余金	△1,666	△1,878	△211		
純資産	6,080	5,869	△211	四半期純損失の計上	
負債・純資産合計	6,988	6,630	△358		

目次

1.	2025年3月期 第1四半期の業績	----	1
2.	第1四半期のトピックス	----	10
3.	2025年3月期 通期業績予想	----	17
4.	参考資料	----	19

2025年3月期 第1四半期 トピックス一覧

2024年	内容	
4月12日	第23回日本再生医療学会総会 優秀演題賞2演題受賞のお知らせ	～間葉系幹細胞に関する当社基礎研究の取り組み～
4月22日	蒲郡市制施行70周年記念式典にて特別感謝状を受贈	～「再生医療のまち蒲郡」への貢献～
4月24日	神戸大学・慶應義塾大学・成育医療研究センターからのプレス発表のお知らせ	皮膚病の要因となるエピゲノム異常を初めて発見 – 汗孔角化症の新しい発症メカニズムと原因遺伝子を解明 –
5月 1日	再生医療※の治療が受けられる医療機関のリストを掲載	※当社販売製品による治療
5月21日	名古屋大学からのプレス発表のお知らせ	体細胞復帰変異によるモザイク健常皮膚由来の培養表皮シートを用いた表皮融解性魚鱗癬治療の可能性を示唆
5月23日	自家培養軟骨に関する論文掲載	亀田総合病院 加藤 有紀 医師らによる自家培養軟骨ジャック®固定法の違いにおける比較試験について
6月 1日	自家培養軟骨ジャック 保険収載価格の改定	
6月 3日	AXIA EXPO 2024（新あいち創造研究開発展）に出展	
6月10日	第26回インターフェックスWeek 東京（バイオ医薬EXPO）に出展	
6月11日	適時開示 2024年度「新あいち創造研究開発補助金」採択	
6月12日	立命館大学薬学部と連携・協力に関する協定を締結	～再生医療を担う次世代の人材育成と産学の交流深化～
6月17日	適時開示 変形性膝関節症への適応拡大に向けて 自家培養軟骨「ジャック」の一部変更承認申請書を提出	
6月20日	愛知県主催「サイエンス実践塾体験研究室」に協力	～県内の高校生が最先端の科学技術を大学・企業で体験～
6月26日	ヒト3次元培養表皮モデル「ラボサイト エピ・モデル 24」を用いた皮膚感作性試験法「EpiSensA」が世界標準化	

PICK UP

自家培養軟骨ジャック：変形性膝関節症への適応拡大に向けて

- ✓ 2024年6月、当社は、変形性膝関節症（OA）への適応拡大に向けてジャックの一部変更承認申請を行った。
- ✓ 臨床試験においては、ヒアルロン酸ナトリウム製剤投与群に対して統計的に有意な臨床症状の改善が示されたことに加え、自家培養軟骨の移植により、変形性膝関節症の軟骨欠損部において硝子軟骨様組織による修復が確認された。
- ✓ ジャックは、既存の適応において7年間にわたる使用成績調査でも有効性が確認され、全国47都道府県で使用実績がある。エビデンス（実績）が豊富な製品であり、適応拡大によってより多くの患者さんの選択肢となることを目指す。

2024年6月 一部変更承認申請

- 硝子軟骨様組織による修復は、OAの根本的治療に繋がる効果が期待される
- 適応追加により、OA患者さんの著しく低下した日常生活のQOL向上が期待できる

(治験参加医師の声)

エビデンス
(実績)

上市目標時期：2026年3月期

変形性膝関節症
推定患者数約 **1,000** 万人

開発パイプラインの上市目標

✓ 開発は着実に進捗中。



PICK UP

自家培養軟骨ジャック：保険償還価格の改定（引き上げ）

- ✓ 令和6年度診療報酬改定に向けて、ジャックが属する特定保険医療材料の機能区分について「特定保険医療材料の不採算品目引き上げに係る要望書」を厚生労働省に提出。
- ✓ その結果、ジャックは代替するものがない特定保険医療材料であり、関連学会からも供給継続の要望があることから、令和6年度診療報酬改定において原価計算方式による償還価格の見直しを行うことが決定した。
- ✓ 当社は新償還価格のもと、ジャックを引き続き安定供給するよう努める。

保険償還価格（2024年6月1日～）

150ヒト自家移植組織(2)

機能区分		これまでの償還価格	新償還価格
自家培養軟骨	① 採取・培養キット	895,000円	1,000,000円
	② 調製・移植キット	1,270,000円	1,890,000円

※ 自家培養軟骨ジャックは高額療養費制度の対象であり、本償還価格の改定による患者さんの自己負担額への影響はなし。

+72万5千円

33%増

売上利益に貢献

2024年3月5日付「自家培養軟骨ジャック：保険償還価格改定に関するお知らせ」

<https://ssl4.eir-parts.net/doc/7774/tdnet/2406696/00.pdf>

PICK UP

2024年度「新あいち創造研究開発補助金」採択

- ✓ 愛知県が公募した2024年度「新あいち創造研究開発補助金」事業において、当社の申請事業が採択された。
- ✓ 2021年度から毎年採択されており、今回で4回目の採択となった。
- ✓ 本事業を通じて既存の再生医療等製品のさらなる普及に加え、新たな製品を開発・上市することにより、再生医療の社会実装を加速する。

補助金
獲得

採択された当社事業及び内容

「世界初の大量生産型ヒト細胞加工製品「乾燥同種培養表皮」の実用化に向けた研究開発」

乾燥他家（同種）培養表皮は、世界初の大量生産型ヒト細胞加工製品です。他人の皮膚を原材料とし、やけど等による皮膚の創傷に対して優れた治癒効果を示します。

本事業では、実用化に向けて量産技術を開発し、製品の最終評価を行います。



立命館大学薬学部との連携・協力

- ✓ 2024年6月、当社は、立命館大学薬学部と、教育と交流の連携・協力に関する協定を締結した。
- ✓ 立命館大学薬学部と連携し、教育及び研究活動を目的とした人材交流、講義やセミナー等のイベント開催、共同研究などに取り組む。
- ✓ 本協定に基づいた活動を通じて、再生医療を担う次世代の人材育成に尽力するとともに、産学の交流を深めることを通じて再生医療のさらなる発展と普及に取り組む。



連携協力協定に基づく取り組み

1. 教育及び研究活動を目的とした人材交流
2. 講義やセミナー等のイベント開催
3. 共同研究
4. 研究成果の普及及び活用
5. その他本協定を達成するために必要と認める事項

2024年6月12日付「立命館大学薬学部と連携・協力に関する協定を締結 ～再生医療を担う次世代の人材育成と産学の交流深化～」

<https://ssl4.eir-parts.net/doc/7774/tdnet/2459486/00.pdf>

再生医療※の治療が受けられる医療機関リスト掲載

※当社販売製品による治療

- ✓ 患者さん向け情報の充実を目的として、自家培養軟骨に加え、新たに自家培養表皮によるあざ（母斑）、表皮水疱症の治療が受けられる医療機関のリストをホームページに掲載した。

患者さん向け情報の充実

J-TEC HP
皮膚領域

- 自家培養表皮による先天性巨大色素性母斑の治療が受けられる病院 **NEW**
<https://www.jppte.co.jp/hospital-list/hospital-skin/index.html#LINK-A>

- 自家培養表皮による表皮水疱症の治療が受けられる病院 **NEW**
<https://www.jppte.co.jp/hospital-list/hospital-skin/index.html#LINK-B>

再生医療ナビ
整形領域

- 自家培養軟骨による離断性骨軟骨炎および外傷性軟骨欠損症の治療が受けられる病院
<https://saisei-navi.com/hiza/hospital/index.html>

（J-TEC ホームページ）再生医療※の治療が受けられる医療機関 ※当社販売製品による治療
<https://www.jppte.co.jp/hospital-list/index.html>

目次

1.	2025年3月期 第1四半期の業績	----	1
2.	第1四半期のトピックス	----	10
3.	2025年3月期 通期業績予想	----	17
4.	参考資料	----	20

2025年3月期の業績予想

✓ 2024年4月30日に公表した業績予想に変更はありません。

単位：百万円 (百万円未満切捨て表示) (増減率は円単位で計算)	2024年3月期	2025年3月期		
	通期実績	業績予想 2024年4月30日開示	対前期	
			増減額	増減率
皮膚領域（ジェイス、ジャスミン）	911	1,026	115	12.7%
軟骨領域（ジャック）	321	452	130	40.8%
角膜領域（ネピック、オキュラル）	173	279	105	60.5%
再生医療製品事業	1,406	1,758	351	25.0%
再生医療受託事業	865	836	△29	△3.4%
研究開発支援事業	242	350	108	44.6%
売上高合計	2,514	2,944	430	17.1%
営業利益	144	120	△24	△17.0%
経常利益	147	123	△24	△16.3%
当期純利益	143	87	△56	△39.2%

※ 2025年3月期より、再生医療製品事業の売上高を領域別に表示する。これに伴い、「その他」としていたジャスミン等の売上高を各領域に組み替えた。

目次

1.	2025年3月期 第1四半期の業績	----	1
2.	第1四半期のトピックス	----	10
3.	2025年3月期 通期業績予想	----	17
4.	参考資料	----	19

当社の再生医療等製品 一覧 (2024年7月現在)

1

国内第1号の再生医療等製品

自家培養表皮



製造販売承認
2007年10月
保険収載
2009年1月

2

日本発の技術を製品化した
国内第2号の再生医療等製品

自家培養軟骨



製造販売承認
2012年7月
保険収載
2013年4月

3

眼科領域で国内初の
再生医療等製品

自家培養角膜上皮



製造販売承認
2020年3月
保険収載
2020年6月

4

眼科領域で2つ目の
再生医療等製品

自家培養口腔粘膜上皮



製造販売承認
2021年6月
保険収載
2021年12月

5

患者さんが多い白斑治療用
再生医療等製品メラノサイト含有
自家培養表皮

製造販売承認
2023年3月
保険適用申請中

製品

製品
外観承認
時期

自家培養表皮ジェイス



適応対象 ① 重症熱傷

受傷面積として深達性Ⅱ度及びⅢ度熱傷創の合計面積が体表面積の30%以上の熱傷を適応対象。

② 先天性巨大色素性母斑

母斑面積が体表面積の5%以上の治療など、既存の標準的な治療では母斑の切除に対応しきれない場合に適用。

③ 栄養障害型表皮水疱症及び接合部型表皮水疱症

4週間程度持続しているびらん・潰瘍及び潰瘍化と再上皮化を繰り返すびらん・潰瘍に対して適用。

保険償還 価格

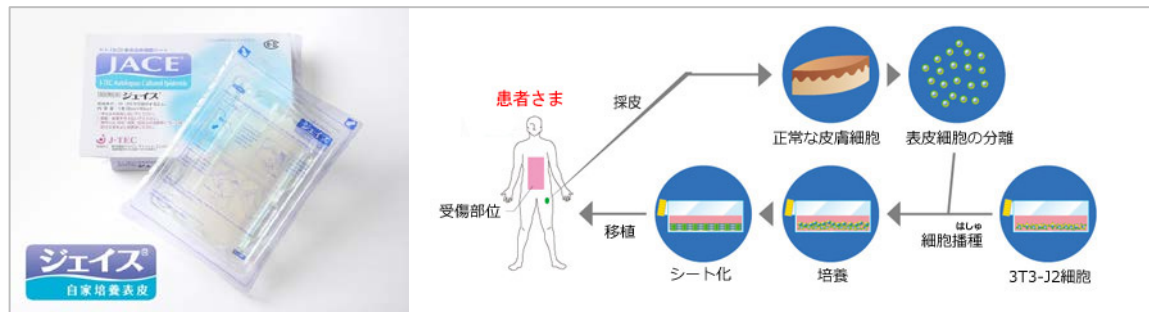
① 採取・培養キット：4,460千円

② 調製・移植キット：154千円 / 枚

算定限度：40枚（熱傷）ただし、医学的に必要がある場合は、その理由を診療報酬明細書の摘要欄に 記載した上で50枚を限度として算定できる。30枚（母斑）、50枚（表皮水疱症）

技術 導入元

米ハーバード大学 Howard Green 教授



自家培養軟骨ジャック



適応対象

膝関節における外傷性軟骨欠損症又は離断性骨軟骨炎
(変形性膝関節症を除く)

の臨床症状の緩和。ただし、他に治療法がなく、

かつ軟骨欠損面積が4cm²以上の軟骨欠損部位に適用する場合に限る。

保険償還
価格

2024年6月1日～

① 採取・培養キット： 1,000千円

② 調製・移植キット： 1,890千円 (使用した個数に係らない)

技術
導入元

広島大学 越智 光夫 教授



自家培養角膜上皮ネピック



販売：株式会社ニデック



適応対象

角膜上皮幹細胞疲弊症

ただし、以下の患者を除く。

- ・スティーヴンス・ジョンソン症候群の患者
- ・眼類天疱瘡の患者
- ・移植片対宿主病の患者
- ・無虹彩症等の先天的に角膜上皮幹細胞に形成異常を来す疾患の患者
- ・再発翼状片の患者
- ・特発性の角膜上皮幹細胞疲弊症患者

保険償還
価格

- ① 採取・培養キット： 4,280千円
② 調製・移植キット： 5,470千円

技術
導入元

イタリア G Pellegrini教授・M De Luca教授



自家培養口腔粘膜上皮オキュラル



販売：株式会社ニデック

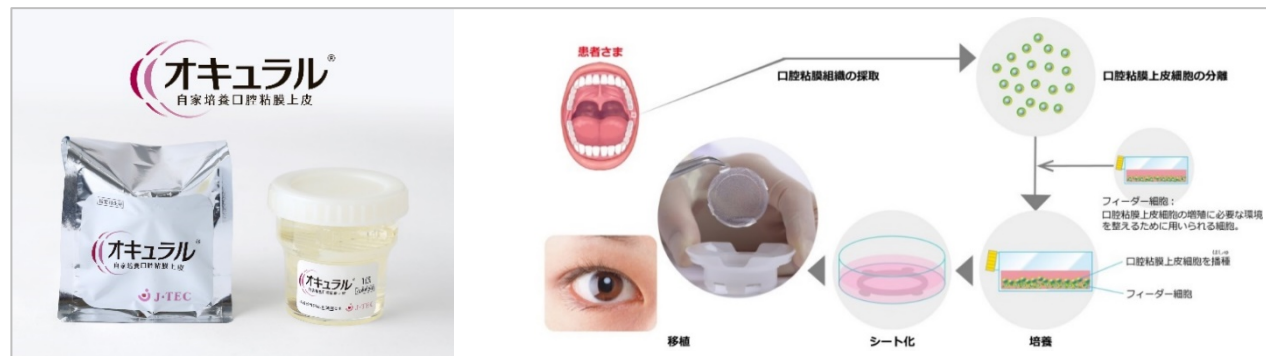
適応対象 **角膜上皮幹細胞疲弊症**

保険償還
価格

① 採取・培養キット： 4,280千円
② 調製・移植キット： 5,470千円

技術
導入元

大阪大学 西田 幸二 教授



メラノサイト（色素細胞）含有自家培養表皮ジャスミン



適応対象

非外科的治療が無効又は適応とならない白斑

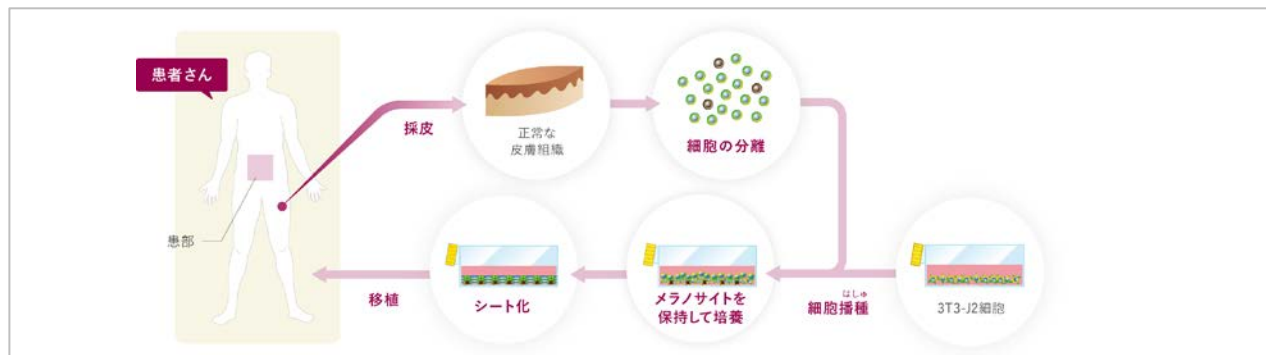
12ヶ月程度症状が固定した尋常性白斑、vogt-小柳-原田病若しくは化学物質による完全脱色素斑、又はまだら症などの先天性異常による完全脱色素斑

保険償還
価格

保険適用申請中

技術
導入元

イタリア G Pellegrini教授・M De Luca教授



本開示資料は、投資者に対する情報提供を目的として将来の事業計画等を記載したものであって、投資勧誘を目的としたものではありません。当社の事業計画に対する評価及び投資に関する決定は、投資者ご自身の判断において行われるようお願いいたします。

また、当社は、事業計画に関する業績目標その他の事項の実現・達成等に関しその蓋然性を如何なる意味においても保証するものではなく、その実現・達成等に関して一切責任を負うものではありません。

本開示資料に記載されている将来に係わる一切の記述内容（事業計画に関する業績目標も含まれますがそれに限られません。）は、現時点で入手可能な情報から得られた当社の判断に基づくものであり、将来の経済環境の変化等を含む事業計画の前提条件に変動が生じた場合その他様々な要因の変化により、実際の事業の状況・業績等は影響を受けることが予想され、本開示資料の記載内容と大きく異なる可能性があります。

株式会社ジャパン・ティッシュエンジニアリング

〒443-0022 愛知県蒲郡市三谷北通6-209-1

TEL: 0533-66-2020 FAX: 0533-66-2019

Email: jtec-info@jpte.co.jp